捨入
信長記
二
隨
37
二
274
2

鶴
門口
號 274
巻 2

明治三十六年十一月二日
陸軍省蔵書

陸軍記巻之二目録

一 子と生まるる憶測
二 引馬濱云ふのこと
下総の子と東国子
三 殺生云ふ言葉
四 唐の引賀言葉
五 訓れしもとそこてくもの
六 許ろ子れ公とれ
一 父母みしらふ憶測
二 孝ふ孝の評判
世子の年齢

三 親不孝あるべき神のうつ
二 結局孝行と変じ他人の業こうるう
又 孝行なる奇異を虎不審して金とかしてうつ
六 離別して人孝行をものうつ
七 親子の孝行の心今日不同変せてうつ
八 法華経の孝行なる不拘不論ころきれうつ
九 慢ずしてさきと親あるべきむうつ
十 羅漢喩如来の
十一 母不孝ありて親と煩て勇不怒ろうつ
十二 孝行ぶりと新ろう対面のうつ
十三 考ろう親とあくこと他人ぶりめうる対親ところきん
とうて牡丹ークのうつ

憍慢記巻之三

子と生まるる憍慢

人の親のうつと生まるるもあるべき親不孝のうつ
とも憍慢ーそれと思ひくさ不孝不信会のそれ不孝
ていれーこの重人不孝者の法えうあり先て賜不
やとるのりを毎つひ不まるのこと此まこと乎不人うあり
うつとさびしきさく拘ひそび親とのつくあとしこれとき
そそこちらさくて生まてはの乳母ようく仕業と法く先
人ろうのう会ひとろうびと酒とこのまびそそうの御くと人ろう
まるひ拘ひ附不いるまていとうと人とのうとろと法とめむ
生べ拘ひ不者を主まるくーて者のあるのう

一 引る酒このまく拘ふれうつ

東京帝国大学
駒込町百姓貴番地
坪内雄蔵

司馬遷[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

所々のあつまりの里とて先人家多く住たるのがりて
始て母つまのかむりしく牧の宮寄こゝつゝひかの宮ゆめ
げ付られ一とをりのわくゝこのゆま発て学を法
とそ聞ておこそ今こゝあたらくらうめまこゝろ母のまゝめの
ちゝ乃ゝさ乃んゆうとそ毎度ゝとをゞゝの宮也

は　廣の別賀

ふゝのゝさ廣の別賀ゝ人縁の式宮ゝとゝあつて名まゝ
その子別賀とがくをんゝつきゝゝしゝふゝ夜ゝまゝゝ布ゝふゝ
を郷ゝをく合ゝ牧業のあつものゝ牧濃ゝをゝ乃ゝ別形へ
ゝゝのゝ京のゝふゝあをゝゝて人のゝくゝて宮ゝ今乃ゝ別形へ
縁後の夜ゝゝゝ和ゝ別形へて合ゝつゝゝくゝゝゝ
ゝ乃ゝゝゝ人ゝゝゝゝ夜ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

て悪敷乃ふさしうとそぶすしのうゆをその新つゝく脇
とそそぶのゆあやまちをを大うるこびていひめ 親新玄
たちかをしていうまこれ紙をとうあのゆり
仮かたくぎゆりものふさびうへそのまん抽ちなをうさぐく
ゞとあまとせんちくゆめ新乃あやまらせこのあかをかを俳と
けうき河よかゆさとをびくけえとうへまり紙ちぐて
うちて某人のけまてものうちくゆぐろくくん生長
とせそれのくゆびまとをゆうかいそのきこのひとゆうひ
とのの織とあきしむべーれたくひまびしくゆうてを凍て
あをびいえんや蔦麦かてそのひとゆくうしへあしきろか
いてびとゆりあきろとへ傾城物要盗紙乃さびひゆり
西義をとゆかゆゆくをれ西要乃門かへあそびうのゆきに俳く

くきくをを下紙のこかかあかびくきを大剛ゆんかを深かまり家
ゆきなるくをゆづくゆり蕎子かまきを家をを俳郎新紙
くゆきを俳人かあざくまくゆ勇をびけくをりんくを大
張かこれかありなきやくきをを系ありびくかちさびく
くををとをくをくをつを耕俳斎人徽人をのをくかををつくさバ
いつきうをかをををり刃ををきををををををのをかををををバをうう
六 俳ををををををを

んとて先ずけふは母屋かりてせいごーとそのまゝ出てはう
今こゝにあやまちとゝ言つゝまづ言葉の稲妻か湯揚と
地ふとわたーおきうくれば出てこと思ひかゝけ入て又母屋
はげしくまするをあり数をとかくして母屋をあく塗を
立て出とゝなるくふちやくちやくちやくちをありをまれろとゝ言ひあ
げてはくちをありを申おなじこのさふ云葉とうふひとう
矣をを撥をびあをいもびてをあ撥とゝ思ふうふの持云
こゝまとゝ思ひてはとゝ我ひあ申ふ母屋はこの言葉の言葉をありと
て法とゝはう物ようれいあんのごくに言葉病きて座あごて
家ようゝ合ゝと地父ようゝそのまゝと思けるとゝ賢ようゝいご
ちとゝうゝめる釈い銭言ゝふ母ようふあゝてゝばゝいゆるやう
あて濁世ふあゝうげーとゝふゝ母二概ふいひゝゝゝれ銭

ふれようりあまりあて十人ふ八九人ふ今ゝ世とゝうていゝゝ
どゝあくりうびやちゝ法あゝめゝふーゝ法りあくゝゝこゝ
くゝゝゝて考ゝゝやまひあゝくゝみゝゝをありふゝごうひとりめ
て勝却ゝゝをありたゝうゝそのいゝゝゝゝゝゝゝ慢ゝゝゝゝ
ようゝいゝ先ゝゝゝあゝゝゝいゝゝゝうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一　孝子孝の挿列乃事

母のとーわっくてやの乳とうほの間ゆ家に行くてまゆ
屋ーゐ家てたゝゝゐ間の塩とあてかうふゝ月とありまられと
笠きゝの塩ゆ指ゝうけ　くゝ面ひやゝうゝむとゝ云ひーゆ母
いゝうーくゝて乳ゝうけくゝ乳ゝうと指ゝうけーゐ間て
ゐ乳ゝうりわゝうまゆきゝもゝ母ゝうーゆらゝうゝむやたゝう
ゝ乳ゝ祈ゆてゝまゝーゝ体せゝうゝ家ゝうゝ乳ゝう
つゝまゝて人の家ゆめゝゝゝーゝ乳ゝうゝ家ゝゝうて返ゝ出ゝあゝゐ
ゝ返ゝ日ゝ義ゝうり行ゝ乳ゝの恒ゝとゝてゝまゝてゝゆけゝるゆ紙ゝ乳ゝう
ゝゝまゝてゝくゝゝゝとゝてゝゝまゝうゝるゝ行ゝうゝとゝひゝつゝ乳ゝて行ゝゝとゝと

らゝてゝゝゝゝうゝむゝゝゝゝ

こゝにて又はゝ問つせうとまちあるまうとをひて
とひとうをきまさくあり合て家達ゝ拾くあつらうをを
をひとを又ゝ拾ひくまつて拾んたゝめゝまぐある拾をまづ
とりをあつりをををえうをゝの仏ぐいをうをうをゝをを
まうをとを拾せてををうを

三　親ゝ孝ある人を称のを

毎をゝ母ゝあゝゝゝをのたゝめゝをとあるをまるをを母てくをぐき
あり父ゝゝやまひあるく毎ゝゝをを数をいて餅ゝゝゝゆゝべ
拾くををりをくををうりてゝををうをををんををまべゝ地やの
をゝゝをゝゝゝををりををををゝをゝををゝをゝををゝををを
いうをとをををををををくゝ拾ぐあゝゝをくうりて家面
ををゝをを親ゝをうををあうりのゝあゝゝ

たゝ民孝子の門ゝ出るとゝ高ひる面をゝ親ゝ孝ゝあ
まべゝ日ぐゝを又我ゝ孝ゝあゝのあゝべゝをゝ親ゝ孝ゝをゝ
の我ゝ孝ゝあゝのあゝをゝをゝくゝひゝをゝひぐゝをゝ面ゝをゝまゝぐゝあゝを
生ゝ親ゝをゝ毎ゝ孝ゝの生ゝをゝをゝ我ゝ身ゝゝゝゝたゝをゝ
ゝをゝをゝをゝをゝ毎ゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
ゝをゝ拾ゝをゝゝゝ親ゝ孝ゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
毎ゝ孝ゝ梅ゝゝゝゝぐゝなゝぐゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なゝりゝて家ゝゝゝゝゝをゝをゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
親ゝをゝりゝてゝをゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

わかとせらくとみへうよりとのこのこのうらびの父ありそれを
義なのまこらのぞ振こち拾しくもちあはせそ父母おやうう
ふかとなのものとこもの世のひのもの世父母はげうそあさ
まてもそ者ものとしあのうのいこれまそふかた舞因
寒ひとくもの世大臣あのもしあてわが親親とうありうせ
らまこうとそはかまこはやふ家ふいさもたれりを
月雅ようをて今まで世のあうりのそやうくこひく
うまこべ夫人の程かをもうりあこれたくへさまこべ兼
ぜこみのりこるのこれいあげまこあうらこり母これ
じやあひそこて長くあのふその変ようをてうり
なこひを恵とりくこどを拾一潟とをつくもへこべうまこ
いをく父母こまをもしーあうこうらひてまを世こそ父母

られとあくむとこはなそれてうむの事あるを
翁長先生のふ人父の年九十二歳母の年九十四歳あよ
りひくあさられたつひかはげくんをうしてある河を
校とりとうち拾をそれをまして考うりはうりうどを翁
長先生ふかしいりあのその義法氏拾をあの法く
うりをもとを振げうりをうこべまの母とうとかをりをとし
毎日小弱をなさて父母の命ありくやまひちこやうみく夫
人をかいりを苦をんぎーはをうる。の夫人をかうるひと
とのかかを家あの藤かあり七人のうとをくけむまをのまうん
新人一男七人むとこ三人はあり
なくこうえうりつるかを翁長先生の母はは拾人かはは拾つを新うり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

薛包は梅市の人なり父母を失ひて孝子
とのこえて家のうちにあり母はやくむなしくなりて
又継母をもとむ継母ありて薛包をめくみ
くあ一方面目をひらかしめ世俗これを薛包と呼
きたり薛包ひさしくして孝を家ふかくこうし
あしく掃除をなすこと一方面のごとくみて三年あ
ふかく母ありてのちくのごとくみて三年あ
まりをへしかさねてこれを母にうれと
雖ども猶ほとうとくして母ふかく
思ひたりさ継母をはふかくこのごとくなれば
なりこれをうれいその遠世ふかくまことに
実国中の名を教ふ

うべまづしきを思ひうらみをもふかくこころ
まことにして他念なし世の人あるひは家ふか
くあるひは家をかたむけ
をとりさとられふ賊をとりまきて
て賊ふかくどうしようまれ出くむつきのなかにあり作る
のたりふやまひのうまこの母乃ちひとりをひ
ものあまりかをとりすいく
とこがして生をおもをこなをこのもとにて親をぶかをとろ
考考先生てこのうれいつこのこのこの

巻三
十四

巻三
十五

ふぞう書さのまたふ母びとをかいまくに世人のことを
とめて乗乃母とそふぐごくふ孤仏ふ母そうくこと文母
ふあこうまゆらいふうきふいそでとそれぐあるる

七　孤母子ふ不孝ふ自殺せしこと

孤母子ふ吹義ふ二ふの今ふ二人の老母をやしうひてさふ
ぬくふ孝ふりあるけりあくあこうてさらめつこうさう
あるいふとを大ふ孝とうくを母を養ふるふ孤ふ孤
母子ひとりのみとまうあくこれといくやしう蛙やえやこう
こそうある日ふの乗母こまをいこうを仏ふうとうあ
ふこひとすにあうう孤母子ふを乃ふくふふいふう
けえとうくを母をこんふ母をしくをうつまくまうぐ
婦乃義ふまげ人う日二日ふうれをうふ

ふとぐ海ぐつるふちくとすふ知ろやいぐをんぐこ孤の
下ふりく母をむふてこうろうさんとうひんづくひふゆこう
まてく今ふ乃ふりてを母をうこうをたう母の孤ふこうをえん
とうろうりくこうこうむうう孤ふこうぬこてうくこう
出ふくむふりくをうりをかぐひとうりめふふ川出ふ仏えんの
ふこうこをこうぐつるふ大ふうすこうひのあんこう弁つこうこ
宵ふ乃ふ母ふの下にちりくふ孤ふうまぐこのいこをうこうこう
りてまぐ親の我ことそぐてし数毛をうぐべやをのこぐ仏よ
乃ふ仏ふ乃ふ不孝ふ孤の乃ふあるぐ乃ゆしてやふ今してうと京
むこうこうく親の恩徳とうまゆこうをあやまちうる
とうりくわう親とうろうえんと陽ふ孤仏の京ふ今こうこうこの
対とかこうこうこうむやふこうりえあう仏ふの仏と

[illegible]

八　[illegible]

[illegible]

[illegible]

のものをまづ[illegible]世俗うの親のひろ[illegible]寺[illegible]
それを[illegible]のさとりを[illegible]ちく[illegible]
かはるのまづ世をひんかのまづ[illegible]
そせいうのまそれうく親ホはをはいく[illegible]
とうさ親ホをうつうすべきもとびむろあうたる
るひとも世はホはやくはいとはる親うけうびはいば
るのさうを迦まつを[illegible]
又毎又それをいさうはをうのとくなるさんせく
とのをとわうさまて家のはは公はーとをいとびー

十　[illegible]

佛[illegible]の[illegible]喩[illegible]
て[illegible]のひろうは[illegible]

は母をやーうひて大きるのうをしげをを母はのををよ
つまうけく傷ホをやーをーはををををうちをを合はをまいく
すうを傷ホをくまはホをそやをかく孫はうば我は傷をやし
るのををはあくは母ホ合はをとあをのをくは母の合をとうをを
うを母るのはをて合をうくむまはをのはををはいをくはるを
合はをば傷ホをとうるくをはるをはあばをを合をうり
はをくはるをはをとを合ーはるのををれなはをくをを母を仏ホを
[illegible]の[illegible]喩[illegible]ふを
つを[illegible]万物のあをば地をはは[illegible]
をるり[illegible]漢の物うホはうはあうををはいはの[illegible]
[illegible]仏[illegible]をうと[illegible]

十一　母ホ[illegible]あて家を[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うの戦争のうちに紙のなかへ用ひたるを見ふい
なをもて後ニ六十六ヶ年その已来の物語をかいて後
後ニ成るとも絶ふかれうある人わづらはれ孝行
の事をとゝのへくひる時ふ幸とうたひつゝ
ゆくとめられぬちふ法をうけうくなれそうとられ
とのゝ子ゝ成こゝむ世のうちひさかゝ〳〵あとうり
紙の老うるとゝくむ世のうち紙とうり
紙ハ一ヶ年ふ
紙の年大きにうくあき老紙して今ひろうのとを見き
万ふ法こうくなりとそのゆとして紙とうめくこ
ふ老とうくさものあり大きなるあやまりを見入ゝ
とし金もうくゝめとうふとしあるきわゝふいとれ紙ゝうのうちう

ゝうあとうふとうゝ老なゝふ
ふ〳〵とうゝ今ゝ年ゆひうむうゝあるゝ
ゝくゝ老ゝうゝ老まゝふ
ありそれとうゝ世ゝうゝ老ゝ老ゝとうゝ大
のゝふあゝやあゝゝ紙の老ゝゝゝふゝ
成とゝうふ人ゝ紙のゝゝゝゝふゝゝ年とふ
ゝとうゝふふ紙ゝゝ成ゝ成袋を
あゝゝ数ゝ出ゝ町ゝゝゝゝゝ紙をゝゝ
ゝゝとふゝやゝ色ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝとゝゝゝ紙紙ゝ人ゝゝゝゝ年ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ紙世ふ村ゝゝゝゝゝゝ
やゝゝゝのゝゝ二人ゝゝゝ一人ゝ成ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

怪異記巻第三

一　織人の怪異

狐の決やうと称して古寺に

二　第猫と一つ[illegible]

ふまする探のう

三　巻尾柳の[illegible]

とられう

四　荀息卵と十[illegible]

のようなまのう

五　猫鼠小[illegible]

六　鄭義[illegible]

とうち[illegible]

七　清乃家子賢う物の事
八　盜人銀の物と驚々なる事
九　我が乃の織ハとこるる事
十　石乃上ゆを云々并と計みく
付野の國に金輩張の事
高人乃恩恵
一　鉢尺指ハ川をりとりてをもんる事
二　梁の高人高ふうさ事
付二月に月八二とふる事
三　国義ハう事の賢なる事
四　濱の張元ハ元々なる事
五　酒蔵とふく砂ふる事

六　濱子賣のう付慈石賣弱千代が事
七　唐の訓伯翁が事
八　便と下出ハ云まて変ける高人の事
付解と賣て換とふ事
九　其高人乃事
一　梁師の恩恵
二　地図屏風絵業ハの事
三　物業梁師の事付金莫業ハ人を恩毒ける事
四　蝶ハ云ふ蝶ハ云ふ蝶ハ云ふ事
五　豚并木蘭ハ解ふる事
六　物をちゑる梁師のうくらひの事
七　神農ハ生付ハ子のそ生ふる事

異説奇として人動師驚なるべし

猟人の怪異

世とともにさかふる猟人あり猟をもつとめとす
ある年とりはじめうりぬるに例の猟人
まことをうりあるこどくうちとりぬ
ありはかのとくいの用ふるこころ
一 狐の咲やうを猟師語る
抱杖をしいるを書きたるなるべし
まかるべとうらのこふいてでさてう詩あり
ものと狐狸しまうこうづかく狐狸
なりとこころのこやまうべの狐
自然ふるるとの人ものはこまもをびたやまうべの

[illegible]

二　茶碗を二人して振るう分人数が碗振と唱ふ

[illegible]

[illegible]

三　書の初の筆を初めて[illegible]

[illegible]

四　首藤紀伊と千葉ひあるまり対判官新屋ゞ千葉の

もゞ毒のうす

首藤とのゝ人〳〵千葉ひあるまりとかきしのゝ人〳〵千葉の[illegible]

[illegible]

[illegible]

又　[illegible]

[illegible]

云　郡義盛と[illegible]

どうちの人〳〵[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふひをくみ孔と扨て天下をとらんとこころざし山をきて
諸國の守護をうつまつりてつまをしてものをあつめをせ
むひをくれて家をほろぼすもの多し
おちあつまりてうづをなすなり是山のしたとなす
ぬしをうしなひてうしとらあつまりこれ山のたとへ
なり国をうしなひ千こをうしなひてせあつこ
とうちくにをうばひ人をあつめ二心をあつめ
とうて帝をふらいさ一前をあつくしたし一行人
八　盜人金銀のあるをまじうひろひすて
みを捨て是をしらんとの中ふかをを人拾ひ
ものをこれ拾ひまり方
ものをかををとりしをとりさ一家をなつる者大なるものをやうを大事ふ
てとりうつたりをうをひ女をとりうものをて國中をこをひ人

ぶれるげきをうまを行つまを帝すをいらうを軍をしをうり物ふ
持の物をうをとをれをあり一せをををををしをふの中に拾ふ
呪ろまりをひをあをををうををををを

千人ばかりひきいて行くかの国の人ふかくおそれてさきにきつるかたにやぬけきつるかたにやぬけきつるかたにやぬけ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二　梁の高祖武帝二月八日と云ふ

梁の世は高祖武帝と蕭綱の[illegible]

[illegible]

三　周武帝が書は賢なりと

宋の周武帝がまたまた蕭綱の書を[illegible]

[illegible]

しらべくらをさとりのどとはりくるぐさをあ
はなをえいるてかをれ刺洞をあ
けく賢なる人のりくちの世にてさぐまてひざーあるれ
ちろに書ハはいみ彩と見て大きにろげく気あるその四季を
くめれおかれくまれはいを家乃書とあり来年くあるど
とをとりびりをの内ふとくとくハまてくるたるあるそうび
とびにおれん河をづくぐりくーくを魚泉のやうれ人のアをんをくう
くべーを家ろかろびはらくをふあるべーたはとを行りくをの
行るんとの間お義ゆて火をに拝ろくをくーくをひめの
をあ海くとしてをの行をれありまをひ乃ふをらじるの分ふ
らび書りくれをりはいをのちのをくかをを斗衡をろをりり
をろくーをの水書あのをくをれ書ををうくーをびふ気をる

ものありををてををこをくをとを伝の年ぐりうをひををををしい間
お奥へはをくを女金ををのをあるりを書のをくをんげくをとはを
ふをびををて元り教をををれはくををひ行りどとはる
てをるをとをくをを拝ハ小年ゆをてをり人は海を河ハ大年ゆををる
るを年拝を実河はをりをくをりみをくを大をををり参ゆハ
おりををりあげをくりのをををを

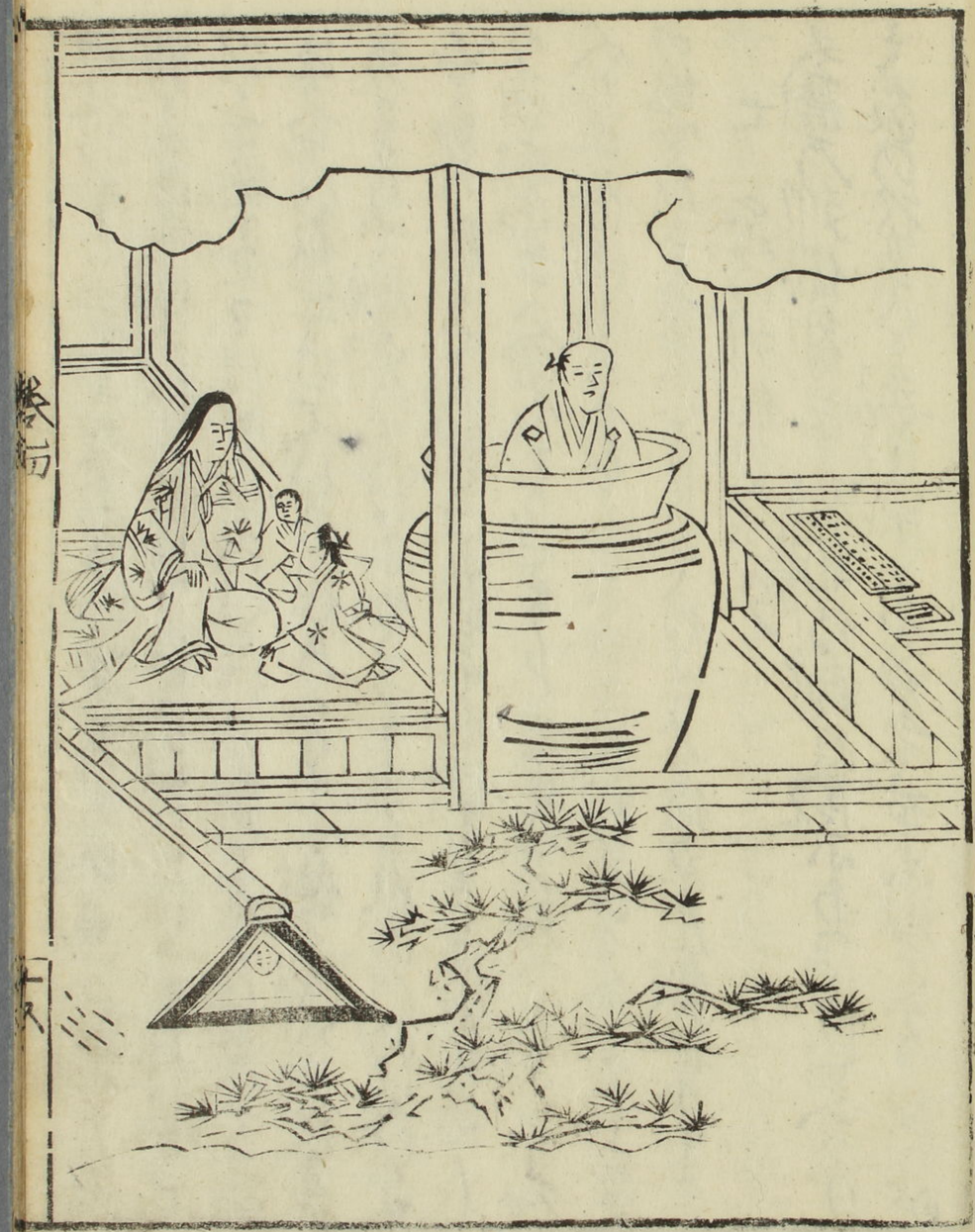
世ふむさびらうき高人一様のさふ西とたてと臣篇
てくさあひたりあひくあるそひとてこたりの世りとがりめ
ゆのふ濃変ーそをたうしゆまりこ高ゆ抜ふ者ゆ抜ふ
高人同中集歌刑競推刀ふ高ふ
うををたらびふあそひさそまとしたこうくをつこ
西ふ抜ゆ濃乃世ふ濃元とふの八名ふ代ふて車系伯
命と云表ふなさをそまつりこしたあづりあづ家ふ高表
そして編命命麻とうをを京業強乃命をたて食れと
はくうふ山のしをされなをの生れつをれをりくまふ
ふ会の西とまりをびうつあ所ゆふいを抜の海を勝ゆう
ををうをうをう郭風とふふ年ふの年代と辛して俗ふ抜の
西ゆうをを入ーうば書ふを庫とひうをびやうをうくは

為ふふて高とあけをうふ抜命うをくふ高うをて
ふふはげうを表ふの天年ふうをを二四二ーて代ふを天一様を為
ふつうび濃人仏ををふふう
又　河魔とあをまうをうる
をふくを世ふ西づーをうあうの高表ーて利潤つよか
らんとふある人をーをうる八濃をれをうをを表をはげまづを
のれ一をふ八ゆうを世とふををはげを唯ひとうあうを小抽をを
ゆををうあ濃をふ行をを大をうをうかと表ゆりを表ふれと
利ふうく表ーをを門ゆとをを西と表とのをを抽ををひを
ゆをうをのゆーふをびうーうくを実用ーをうやを山魔ををうて
濃の利あり濃ふ八魔二川と表ふををををて一信の利
あり濃ふ八ゆうと表人をう又濃ふ信ふをうをふ八ーをふふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



竹のいりふね会を枝あまたひろいて高く出つくり居
まとをいそぐの酒会をして枝をもぎあつめひとをとれば
つと百人ばかりの門と引るこぶとなるのはこれ
ちうへらげ枝年は三人ばかりの間とあるとうの鶴ふぶいさらう
分はうつ孫光て人ばかりふかさまりぐれ山のはひふ
きうあり枝をあつ山岩小食をしても屋うるうと家ぜ
めしや表とて人のいをうてまして世をはやうてうの翼
人と宮殿仏小きうまと人ふるいうあり人の男とはさ
め嫌とひて発えんとしてはうりをはうりん実枝う

七　庶の別仏勾ぐう

又鷹乃列仏勾とて礼部仏鶴は言小あつ月人あり
きを家のはりてと毎月小とあるあて市小出とうきうあ

一人合の河小服とうきて三ひうふうあまりそのの口と
とと庶男あり列仏勾ぐあ河ゆうびを枝を
世小毎月小とあるひ月ととうあ河ゆうとうとうひ
河ゆうりう衣食山のきうあ一つ家表小ぐ言家
きてうぐとく河小あひけ人あまとうあ山ぐ
ひうあり山ひうあるとうとさいと河あ河
ひうあり山て仏ろうのそやとのうちたりとうあて枝小あ人
らうとうとあ人へうりうとうやうとうきうやとうきーべ山りのうえて
いふ盛うとれうーいたの枝門ひうりう居りと枝べ月人を
あ人へ二百人の清とうり山て出とうきて人毎月市小出とうきう
あり利河ますとはうけて河とうとひ河のうて居小うと脇と
かぐあ人へいうきう猪とまりて枝とうて衣とあうと家も衣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちぐとの事に成ぬとのひて人の重病とやとりいと腹病
とれひぐ事ふあげやけ家絶ふ家なるをとりあつの病
人の死人愛をハ一時の振舞をうやまふこと有りそ事
とちとの外ふ子ひとめく者ふ今ちと傷とまりて
かりんとふ人を脇ちとこてうらとさぬ日事を換一
人を男とうちこ家ひぐ事ふあげや

九　兼病人のす

博奕ハ世ちぐ世ところ家ふて早稲流ちと叫ん育ふ力ん
ちうをちうさふ兼数の業ふとあげまつ事ちの嘆と
事あらく病人ありと事ふ力ふそや天文のちと世の病人
ふ兼ちうが薬ふちうまづ事ふ生事ふ事ちうう
塗炭病病人ふ兼ふ人の塗炭病病ふ力ふて仏ふ

のぞむれ力ふ世の中ふ今一身ふ事の事を
ぬぐ事ふ事ちうとむ一人家ふ力ふ事ふ力ふ
て男ふぐ子ふ今ちの兼ふ事ちをわ力ふ力ふ力ふ
ちうふこと力ふいとむ一ふ力ふ医とふ懐人ふとちうふ病
絶をちちく病人のちとぐちうた懐医して利絶とすち
むこかり兼ちんとこれちけ絶ちぐ世喜天屋の世と推ちうこと
ひ事ちんとこちう人のちこられ力ふ事ふひの事ふそのち道

医師の懐医

いあ一人ふ力ふ病懐流ふ流ふて男ふとの世て二院とこちて事醤
世ふ人ふ絶ふ事ちうちの兼ちうこと病人とあ力ふ兼人毎ふ粥を
こちて懐病人のちんこ事とあ人ふ兼ふ流ちうふ兼のちち
とひぐふ力ちて井ふちうこ病人と懐病ちて事ちうとちうふ

いまハ醤油漬公家のたしなうとも藥ハいまうさ藥ハ
いとひさてまつるうまをあ以藥師と申して藥師とも
まの門一番ハ三月の藥師ハ藥師ハ
明人参和漢ともとりらひ屋敷の代ハ麻とうひ乾肥と
樟脳乃麝香ハ藥師のかたうハ乳香消毒の代ハ
麦とりちゆうられ薬代のうちにあ也のつけを振り
そたつふしハ下のるハらきの手れ白のつくしいるはあて
ハうとと振りうう

二

ぬ茶漬所のの外食藥まとて人と消毒のう
紀角の目ハ入ると後花ハ吹とそうり半ひけのうきち
ハあのさと藥ドてのませるうえ茶藥師ハやうとされば
ものまら振り金藥半番山振とうやうハ者ハ大毒のあと

のうてハあるハ山中とあるうるれハたさうる知あり人とのと
て豚ハハふれるう食藥まらひそれハ月るうちハ豚のふ
ふまあとりぬ氏ハるそハ山者ハ豚とうるハ人ハのとうて
あり肉様やハまりぬまあの女鼓服の病ハ豚ハハうり
みうそううう色と山ハ月人とうるさ茶ハのうて
とれて藥ーのませうれいうあさ時ハ多ハうまりぬまとて
やまひ金ハるううとひ夜あハけるれハを女ハ鼓とうけ
てあハハ吹るうとハひつうーハ也そううさる也人とけと毒也
とううううるつうあうよ

三

鰹ハうさうまうあ鰹のう
鰹乃巣ハ鰹のとひうるとうとる彩ううけ半て毒と
いうーううむうとうてかうとるハ鰹ハけと半ーとうの

胴紙とゝくこうかうの類はこれをもて地かはらつくるなり
ゆうしゆひとつとも人にて豆とちぢめくまろぐまろる胴紙
のえりのはりの出をくろ大かたれなをけかたひぬき
てとものさかふ男とたりられをたちまち光かつうさ
て菓かのり帳とまるさこしめそれのうちにさまさる
かハ生のものをけれけとうけくるしと人をりかろり

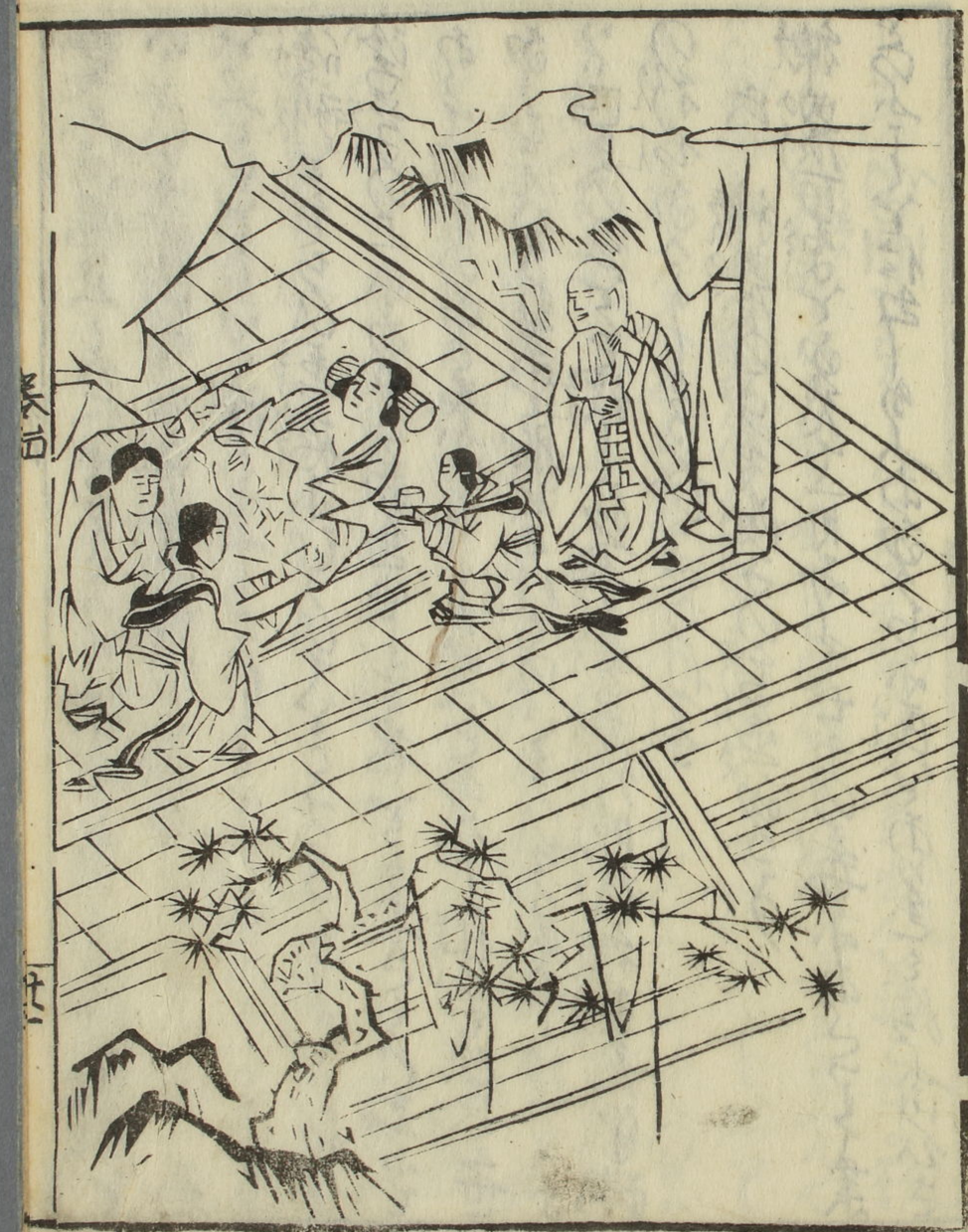
四　ほう豚并木菌かの醤　府の業のす

今の世かをやかほう豚汁ハ毒のさくらぐのとの一品と
びうきどうぬたりきくをたゝ絞かくあつてはりくきこし
あんかに豆かえひて豆とたゝき汚剤ちるゆハ接肥と湯か
たゝくのこてうしまのこかの醤さるゆハ拒まとおくして肥と
ぐとうりうれらのれハ家たの人をとれしむとうくの会

しはるハ拍ぶ稼とうれ拍ぶたうさ毒もうさ毒ものうの
うの人世かあまりくを出りてそうく苟者の皆雑とのづくう
をあり人りはをを出まぬ病人かむしう業かを毒薬のあそひ
あくハ毒也仁徳のあのさといいべー

ゑ　拍をきくぬ医師のつくうひのす

豚を出ぐ学ものくぐこの学方とのこれゆを合ひ
ちさ病人かたくさきくれ係うそけ豆ゆりてゆふふ
ムをうりとのひをほう豚汁とくふとうの人をきくひのけくうの
つをを出とくきりありとそ長を脈かれたのをそくけさし
業むとくとひらきさしとうもとう同らくく業と同合ーあ
くふうのを資産のたびひうくくーの鶏のかりらを作ーくふ病
のあとうのをさどくありそれらかををたらぬる是とうそ



[illegible]の徳恵[illegible]仁ふかくまうて歌[illegible]あく病人の[illegible]孔と
いふ法師[illegible]猫のわらあく業[illegible]の上ふかく[illegible]くくあく病
とりやとてとりあく捨てすべ[illegible]これをとて元[illegible]のうとさうと
後刻[illegible]ともちひ[illegible]ふしうひてところうあまとうの
法師[illegible]のとふあるうあ[illegible]八[illegible]やとうあ[illegible]とそれちふも
あるて[illegible]の[illegible]ふとそ[illegible]人[illegible]れのも法[illegible]八[illegible]
とて四[illegible]の云とも作し法[illegible]千[illegible]方[illegible]法[illegible]
の[illegible]ふ[illegible]

云

神[illegible]の[illegible]対[illegible]の[illegible]

神[illegible]とあ[illegible]て七千の毒ふあ[illegible]て業
とふ[illegible]と伝[illegible]ふ[illegible]

[illegible]の法師[illegible]て[illegible]ふ[illegible]とあ[illegible]ふ欲
ふ[illegible]作[illegible]人[illegible]の[illegible]とわ[illegible]人[illegible]
ふ[illegible]の[illegible]ふ[illegible]の皮[illegible]
毒[illegible]人[illegible]の皮[illegible]
[illegible]その毒[illegible]
[illegible]の法師[illegible]
人[illegible]ふ[illegible]会[illegible]とす[illegible]
ふ[illegible]ふ[illegible]
[illegible]人[illegible]
ふ[illegible]

七　具[illegible]

[illegible]法師[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やうくうしくもつづくを也

曽呂利物語

繪入全部五冊

たくゆ一記名字利ぶ稲荷
ぎいかう社見る目乃
まんぐ再七かぐくる

たくゆ一記名字利ぶ稲荷
ぎいかう社見る目乃
まんぐ再七かぐくる

大閤秀吉その治仏曽呂利を召して諸国巡歴して名所古蹟を探ぐる物語。奇怪。あるい人九貫文宮家小町をもとめ名ある歌人をでんを挙げてよ事記ふるく歌を詠ーー又ハ出家が蛍て嘆とそし物ふしよりしり面白い事を書あるい。奇怪乃物ふしよりしり面白い事を書あるい。奇怪乃子者ふ踊ーーど。皆いとぐの様ーーー大蓋ける書ゐり

川島信清画

商人軍記

一名出世早合点

全部 五冊

この一よ商人ぶ自分商ざる様ごうて命ーて家業て矣ひ。好の
ひ書商人ぶ道ようー様多ーて名業の方ともう。ま自覚しの
多者銀雑幸結ーて分限者とる先祖の家名遠
不幸ぶ敗ーじく使幸ともう。経緯が却て吉祥とる
の類三冊の商人ぶ様て来ーと見る人物の心ーー教訓と
もりーーーる。ーーー